

1 学校教育目標	2 本年度の重点目標
ふるさと嘉瀬を愛する青藍の子の育成	① 確かな学力を身につけさせる。 ② 豊かな人間性を育む。 ③ 主体的に活動しやりぬく力を育む。

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3 目標・評価

① 確かな学力を身につけさせる。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)	担当者
教育活動	●学力の向上	基礎学力の向上を図ることができたか。	・児童アンケートにおいて、「授業の内容がわかる」の評価を90%以上にする。 ・保護者による評価において、「学校は学力の向上に取り組んでいる」の評価を90%以上にする。 ・家庭学習習慣を定着させ、課題提出率を100%にする。	・算数における児童の実態に応じたTT、少人数指導、個別指導などを計画的に実施する。 ・学び合いを取り入れた学習過程を実践する。 ・週1回のスキルタイムを設定し、素読などに取り組む。 ・「家庭学習のすすめ」を作成し、家庭と連携した学習習慣の定着を図る。 ・「がんばろう週間」等の取組を充実させ、児童の課題提出については級外と連携を取り組織的に行う。	まなび部	永淵
教育活動	○読書習慣の定着	子どもたちに望ましい読書習慣が形成できたか。	・80%以上の児童が、100冊または8000ページ読破の認定証をもらう。	・お勤めの本紹介、必読図書選定で読書を楽しむ環境を作り、100冊読んだ児童や8000ページ読破した児童には認定証を授与する。 ・「ノーテレビ・ノーゲームデー」を毎月実施し、家庭での親子読書を推進する。 ・朝の貸し出し時間を設けて読書意欲を喚起する。 ・子ども新聞を活用して、読書の質を高める。	まなび部	永淵
教育活動	●教育の質の向上にむけたICT利活用教育の推進	教職員のICT利活用教育のスキルアップが図れたか、また、ICTの利活用による授業を始めとした効果的な教育活動が行えたか。	・毎日電子黒板を有効に活用する。 ・ICT支援員等を活用してICT利活用のノウハウを向上させる。 ・児童アンケートにおいて90%以上の児童がICT利活用の学習に満足する。	・教育情報化推進リーダーを中心に電子黒板の使い方の研修をおこない全職員がいつでも使えるようにする。 ・ICT利活用の授業の相互参観を行う。 ・ICT支援員の勤務日に授業での有効な実践例をきき、日々の授業に生かす。	まなび部	永淵
学校運営	○教職員の資質向上と組織の活性化	授業力向上の研修の充実を図ることができたか。 三部体制が確立でき教育活動が組織的に展開できたか。	・担任等全員が研究授業を実施する。 ・グループ研等でお互いの授業力を高める。 ・センター講座や他校の授業研究会等に積極的に参加する。(一人1回以上) ・教師の同僚性の構築をめざし、教職員の自己評価の満足度合いを高める。	・校内研究の計画にそって「話し合いの焦点化をねらった」授業に取り組む。 ・部長会を定期的に関き、取り組みの共有化と共通理解を図るとともに、各部は部長を中心に取り組み部内専決をめざす。 ・授業や朝の時間、特活動など学年、学年グループの強化に努める。	まなび部	永淵

② 豊かな人間性を育む。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)	担当者
教育活動	●心の教育	思いやりの気持ちを持って生活できているか。 子どもたちは元気で気持ちのよいあいさつができたか。	・保護者による評価において、「命を大切に、思いやりのある豊かな心の教育に取り組んでいる」の評価を90%以上にする。 ・フリー参観デーのアンケートにおいて、「子どもたちのあいさつのはやしはよい」の評価を90%以上にする。	・こころ部を中心に毎月人権教室を行い児童の人権意識を高める。 ・「心のアンケート」を通し、自分や友だちのよさを認める活動を行う。 ・フリー参観デーに「ふれあい道徳」を設定し、日頃の取り組みを保護者や地域に公開する。 ・全校で学級目標発表会を行い、集団への所属意識の高揚を図る。 ・あいさつを学級ごとに目標を決めて取り組む。 (「かせっこ」合い言葉を定着させる)	こころ部	土井
教育活動	●いじめ問題への対応	いじめの早期発見、早期対応ができたか。	・児童アンケートにおいて「友だちとなかよくできた」の評価を90%以上にする。	・毎月1日にいじめアンケートを実施し、児童の状況把握に努め、いじめの早期発見、早期対応に努める。	こころ部	土井
学校運営	○地域とともに発展する学校	「市民性を育む教育」の充実と地域連携を柱とした教育活動の実現と広報ができたか。 子どもたちはふるさとを誇りに思うことができたか。	・保護者による評価において、「地域連携教育に取り組んでいる」の評価を90%以上にする。 ・児童アンケートについて地域への愛着の項目の評価を高める。	・生活科、総合的な学習および教科等の授業へゲストティーチャーを活用したり、KSVNの学習支援を活用したりする。 ・新聞等への記事の投げ込み、学校だより、学年・学級便り、ホームページ等を活用し活動の様子を保護者や地域に発信する。 ・地域行事への積極的な参加を呼びかけたり、行事への児童の参画を促したりする。	こころ部	土井

③ 主体的に活動しやりぬく力を育む。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)	担当者
教育活動	○市民性を育む教育の充実	子どもたちに主体性や地域への愛着を育てることができたか。	・80%以上の児童が、地域との連携行事や体験学習への満足感をもつ。	・地域学習の教材化と地域人材の活用を意図的に取り組む。 ・地域と連携した行事の意義を知らせ、児童の参画を促し、結果のアンケートをとる。	そだち部	野口
教育活動	●健康・体力づくり	子どもたちに望ましい生活習慣が形成できたか。	・毎月1日のノーテレビノーゲームデーの実施率を90%以上にする。	・ノーテレビ・ノーゲームデーを毎月実施し、基本的な生活習慣の定着を図る。実施の際には実態調査等を行って昨年以上に充実させる。 ・保健委員会による健康・体力づくりに向けた活動を行う。	そだち部	野口
教育活動	○幼保小中連携教育の充実	計画的な交流が実施できて、児童の主体性を育むことができたか。	・アンケートで80%以上の児童が、幼保小中の連携活動や教育活動への満足感をもつ。	・年間を通して計画的な幼保との交流を実施する。 ・出番・役割・承認の場を与える。	そだち部	野口

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目(あれば記入)

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)	担当者
特定課題	○小学校低学年の学習環境の改善充実	生活習慣・学習習慣の定着を図ることができたか。	・毎日朝食を取る、明るい返事ができる、正しい姿勢で学習できる、宿題を毎日提出する等の目標達成率を95%以上にする。	・「わくわく」を活用し、具体的な目標を設定し、生活習慣・学習習慣について指導する。 ・家庭教育のあり方や望ましい生活習慣の啓発を行う。(講演会、土曜授業の活用、親子ふれあい活動等)	そだち部	永淵 土井

●は共通評価項目のうち必須項目、◎は共通評価項目のうち特定課題、○は独自評価項目